

平成25年度 第6回 九州工業大学 経営協議会 議事次第

日 時 平成26年3月17日(月) 15:00~17:00
場 所 百周年中村記念館 特別会議室

開 会

- 議長挨拶
- 欠席者等の案内
- 平成25年度第5回議事要旨の確認

〔審議事項〕

- (1) 就業規則の制定及び改正について
- (2) 平成26年度年度計画(案)について
- (3) 平成26年度学内予算編成方針について

〔報告事項〕

- (1) 平成26年度役員及び部局長等の任命等について
- (2) 平成25年度国立大学改革強化推進補助金の内示について
- (3) 中期計画の変更について
- (4) 情報工学部の編入学定員見直しについて
- (5) 平成25年度就職状況について
- (6) 平成26年度九州工業大学入試状況について

〔その他〕

- (1) 平成26年度経営協議会の開催日程について

議長謝辞

閉 会

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成25年度第6回）

1. **日 時** 平成26年3月17日（月）15：00～16：55
2. **場 所** 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. **出席者** 工藤委員，古賀委員，高原委員，豊川委員，成清委員，濱田委員，藤井委員（五十音順）
学長，理事（評価・総務担当），理事（教育・情報担当），理事（研究・産学連携担当），理事（労務・財務担当），副学長（経営戦略担当），工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. **列席者** 監事（教育・研究担当），監事（経営・財務担当），副学長（学生担当），副学長（入試担当），学長特別補佐（広報担当），学長特別補佐（評価担当）
5. **議長挨拶**
議長から，開会にあたり挨拶があった。
6. **会議成立**
構成員18名のところ，16名の出席により定足数を満たしていることが確認された。
7. **議事録の確認**
平成25年度第5回経営協議会（平成26年1月16日）の議事要旨についての確認について説明があり，了承された。
8. **審議事項**
 - (1) **就業規則の制定及び改正について**

学長から，先ず就業規則のうち副学長規則及び役員給与規程に関し，学長を補佐する副学長を強化し迅速に大学改革を推進するため，学長の権限の一部を副学長に委任する総括副学長制度を制定するとともに，理事の給与を1号俸から3号俸に幅を広げ，総括副学長を担当する理事はその範囲内で給与を適用することについて説明があり，審議の結果，了承された。

引き続き，就業規則のうち職員の給与に関し，管理職手当の適用区分を拡大し，系長・専攻長等に手当を支給することとした職員給与規程の改正，並びに臨時特例法による給与減額が3月31日付けで廃止されることに伴う年俸制教育職員の給与に関する規程及び専門職教員の給与に関する規程を改正することについて説明があり，審議の結果，了承された。

続いて理事（評価・総務担当）から，特任教授・客員教授等の名称付与等に関し，業務と名称の一貫性が保たれていない等の問題点を踏まえ，雇用形態別に職名等を整理することで規則等の改正を行う旨の説明があり，次のような意見等があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

- ： 大学によって職名の違いがあり、整理することは良いことであるが、客員教授と特命教授の違いが分かりづらい。
- △： 本学と雇用関係がないが、他大学の教員が本学に貢献いただく際には特命教授の称号を付与することを考えている。
- ： 端的に言えば、特別教授はノーベル賞など大変顕著な功績がある方が大学に参画した場合に与える名称、特任教授は他大学では退職した教員が引き続き大学に残った場合に使用する名称、客員教授は非常勤講師や非常勤研究員に付与する名称、特命教授は雇用関係はないが大学に貢献いただく場合に付与する名称と考えていいか。
- △： 特命教授は現段階で想定しているのは、本学を退職して外国の大学で教員となった方に本学に協力いただく場合を考えている。本学では教員の再雇用として嘱託職員制度を採用しており、今回の特任教授は本学を本務として貢献する者を対象としている。
- △： 特別教授については、ノーベル賞まではいかないが学術面において世界的に著名な方が大学で活躍される場合を考えている。
- ： 特別教授等の任期について、「任期1年とし、必要に応じて毎年更新する」とあるが、プロジェクト等により当初から例えば3年雇用する場合も考えられるため、雇用の発令を「原則として任期3年以内とし、必要に応じて更新するものとする」としてはどうか。
- また話題が変わるが、大学教員の職名は助教・講師・准教授・教授とあるが、教授以降は何もない。民間では同じ職名でも優れた者には、職名にエグゼクティブや上級等の肩書を付与している。大学においても優れた教授には上級等の肩書を付与するとか英語表示で使い分けるとかの仕組みを検討してはどうか。
- △： 任期について、事務的な手続きはあるが雇用者には負担はないと考えられるため、当面は任期1年で実施したい。
- 後者については、他大学でも実施しているケースがあるため、将来的には検討の余地があると考ええる。
- ： 民間では肩書は非常に大切なもので、戦略的に使用している場合もある。大学の職名は分かりづらく、准教授・教授といった職名は分かるが、特別教授等については大学独自で決めているのか。
- △： 大学設置基準には助教・講師・准教授・教授の職名は定めているが、特別教授等は大学独自で定めている。今回の職名の整理は、これまで職名に対し曖昧な部分が多く、それを1年かけて検討してきた。ご意見いただいた上級教授も外国では使用しているケースもあるが、変に冠を付けたくないという職員の見解もあり、慎重に対応していく必要がある。
- ： 職名は大事であるが産学連携の場では、大学教員から名刺を貰っても研究内容が分からないため、名刺の裏に研究内容が記載してあると話題の内容が広がり情報交換の場として大変助かる。
- △： 教員の中には恥ずかしがる職員もいるため統一することは難しいが、特徴を出すことは良いことであり、何らかの形で啓蒙を進めていきたい。

- ： 特任教授等のそれぞれの職名に対する英語表記についてはどうか。
- △： 今回の資料では英語表記を記載していないが、学内資料では英語表記を決めている。

以上の意見等を踏まえて、今後の参考にさせていただきたい旨説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 平成26年度年度計画(案)について

理事(評価・総務担当)から、国立大学改革強化推進補助金の採択に伴う中期計画の変更案とともに、平成26年度年度計画案について説明が行われ、次のような意見等があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： 年度計画における学生総合支援室の活動について、自分達の時代は寮生活の中で先輩の支援を受け個々が成長していたが、現在では寮も廃止され、学生へのメンタルヘルス対応が大事になってきている。1年生の早い時期から大学での学生生活に対する教育を実施していくのが大切であると考えます。
また、「その他の目標を達成するための措置」に、学部の就職内定者数のうち4分の1が女性であるため、理系の女子学生を社会に多く輩出していることを記載してはどうか。
 - △： 理系女子については、年度計画の実績報告で記載したい。
 - △： 学生総合支援室は必要に迫られて設置した経緯があり、学生には授業以外の活動も積極的に参加できるように、部活動に限らずフォーミュラーカーなどの製作等の学年・学科の垣根を越えた活動を支援している。しかし、心の病を患う学生は非常に増えており、そういう学生をいち早く確認し、各関連部署と連絡・連携することで個々にあった対応策を探し、学生ができるだけ早く学生生活に戻れるよう学生総合支援室を設置した。
 - ： 気弱な人間が増えているのは、日本全体の豊かな時代に対する社会的な課題であると考えており、寮の生活を例として、心の病にならないような体制・システム作りの検討が必要である。
 - △： 教育の視点からも重要な要素を含んでおり、例えば設計やデザインを考える際にはチームで実施することを推進している。チーム作りは検討中であるが、外国では異なった分野・年齢・性別などによってチームを構成しており、本学においても教員の協力を得て進めていきたい。
 - △： 多様な学生が生活できる体制作りが必要があるが、これまで学生の活動に対する詳細なデータベースを持っていなかったため、教務システムに追加することで、すぐに出来ることではないが学生をケアできる体制を整えていきたい。
- 以上の意見等を踏まえて、今後の参考にさせていただきたい旨説明があり、審議の結果、了承された。

(3) 平成26年度学内予算編成方針について

理事(労務・財務担当)から、資料に基づき平成26年度の学内予算編成方針につ

いて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

9. 報告事項

(1) 平成26年度役員及び部局長等の任命等について

学長から、資料に基づき平成26年度の役員及び部局長等の体制、及び来年度は経営協議会の学外委員を10名にすることについて報告があった。

(2) 平成25年度国立大学改革強化推進補助金の内示について

学長から、資料に基づき文部科学省より1月29日付けで国立大学改革強化推進補助金の内示の通達があった旨報告があり、本学の改革である「社会と協働する教育研究のインタラクティブ化加速パッケージ」の概要について説明があった。

なお、今回内示のあった平成25年度の補助金の大部分は、戸畑の寮の改修及び学習教育センターの整備に使用し、平成26年度以降はグローバル教育に係る運営費及び人件費に使用する予定である旨発言があった。

(3) 中期計画の変更について

理事（評価・総務担当）から、前回の経営協議会で審議した中期計画の変更案について、文部科学省との折衝の結果、内容が確定したことについて報告があった。

(4) 情報工学部の編入学定員見直しについて

理事（教育・情報担当）から、情報工学部の編入学定員について高専卒業生の進路の多様化により定員を平成27年度より50名から35名に減員することで、文部科学省から了承された旨報告があった。

(5) 平成25年度就職状況について

副学長（学生担当）から、資料に基づき平成26年3月卒業（修了）予定者の平成26年2月末時点での就職内定状況について、学部及び修士課程ともに就職率が上がったこと、並びに学部の8月末の就職率が下がった理由として、大学院入試の失敗により就職希望者の母数が増えたこと等、報告があった。

(6) 平成26年度九州工業大学入試状況について

副学長（入試担当）から、資料に基づき平成26年度の入試状況について報告があり、志願倍率が下がった原因として、学習指導要領を改定する前の最後の年であるため、浪人を防ぐため私立大学に偏った傾向にある旨説明があった。

なお、次のような意見等があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 女性及び障害者の割合は判るか。

△： 今年データを正確に分析していないため判らない。

○： 女性及び障害者については、企業も積極的に採用したい状況にあるため、意識を持って取り組んでいただきたい。

- △： 入試改革を進めていく予定で、学科によっては物理を外した入試を実施し、女子学生の入学を増やしていきたい。活動はいくつか実施しているが、実態が伴っていない状況である。
- ： 以前県知事の依頼により、企業における女性の管理者をどう増やすかの議論を行ったが、依然として看護師は女性、エンジニアや医者は男性といった挿絵が当たり前のように小学校の教科書に掲載されており、この辺から変える必要があるとの結論であった。
- △： 小学校教育の支援体制として、北九州市に理工系の企業OBが小学校に出向き、ものづくりの面白さ・楽しさを教えてくれないか要求している。

10. その他

(1) 平成26年度経営協議会の開催日程について

学長から、資料に基づき平成26年度の経営協議会の開催日程について報告があり、原則戸畑キャンパスで開催するが、場合によっては他キャンパスで開催する場合もある旨説明があった。